

第3回 南阿波定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議要旨

【日時】

平成29年2月21日（火） 午後2時から午後3時まで

【場所】

阿南市文化会館 研修室1

【出席者】

出席委員：近藤光男委員（会長）、岩佐健司委員（副会長）、尾田信義委員、笠原まり委員、川尻竹藏委員、齋藤郁雄委員、酒井勝利委員、篠原敏文委員、庄野二六委員、鶴和正浩委員、長谷宏昭委員、星加美保委員、枘富治委員、松谷隆文委員、見吉政貴委員、湯浅隆幸委員、湯浅真智子委員、渡邊幸江委員（18人）

欠席委員：荒井義之委員、江本友昭委員、川人建介委員、岸彰委員、濱田勝幸委員、原田玉江委員、古野司委員（7人）

オブザーバー：塩見徳島県南部総合県民局経営企画部長、柏原徳島県南部総合県民局主任、田中那賀町総務課係長、磯野美波町総務企画課長、宮内牟岐町総務課長、北村海陽町まち・みらい課主査

阿南市：打樋企画部長、松田防災部長、鈴江市民部長、水口保健福祉部長、坂本産業部長、原田建設部長、篠岡特定事業部長、亀尾水道部長、高島教育次長、久積消防長、松内企画政策課長、柏木企画政策課課長補佐、新居企画政策課事務主任、悦見企画政策課事務主任

1. 開会（事務局）

- ・午後2時開会

2. 会長あいさつ（近藤会長）

（近藤会長あいさつ）

- ・昨年開催した2回の懇談会にて多くの御意見や御提言をいただき、9月1日に南阿波定住自立圏共生ビジョンを策定することができた
- ・その後、国の定める「定住自立圏構想推進要綱」の一部改正に伴い、共生ビジョンに掲載された各施策や事業について、成果指標（KPI）することとなった
- ・具体的にはビジョンの計画期間である5年先など、数年先を見据えて、目標年度までに指標の達成を目指すというものである
- ・今後事業を実施し、共生ビジョンを見直していく過程で、KPIの達成状況等が大きな指針となる
- ・本日は要綱の改正に対応する形で、事務局による共生ビジョンの変更案が作成され

ており、その内容に対する御意見をいただき、審議を経た上で変更案をとりまとめた
いと考えている

3. 新任委員紹介

- ・事務局から、昨年8月19日開催の第2回懇談会以降に任期途中で退任した株田茂委員、久米良久委員、竹内昭文委員に代わり、新たに古野司氏、星加美保氏、松谷隆文氏が委員に就任したことの報告があり、出席した新任委員から自己紹介が行われた
- ・欠席委員の報告

4. 議 事（近藤会長）

(1) 南阿波定住自立圏共生ビジョン（変更案）について（事務局説明）

（ 会 長 ）

変更案の説明ということで、重要業績指標（K P I）を中心に説明があったが、御質問や御意見等は。

< 質疑応答 >

特になし

（ 会 長 ）

9月1日に共生ビジョンが完成し、それから国から通知があり対応したとのことだが、関係各所で十分に協議、検討した結果の変更案とのことである。それぞれの担当部署ということで、現状を一番よく把握した上での目標値であると考えている。

5年先ということで、長期というわけではないが、目標としてやっていきながら見直していくことも想定されるが、現時点の目標値として、本日提示されたK P Iを含めた最終案ということで、原案どおりこれをビジョンすることによろしいか。

～異議なしの声～

（ 会 長 ）

それでは皆様にご賛同いただいたので、今回のビジョンをもって、平成29年度からスタートする、共生ビジョンの最終案とする。

5. その他

- ・今後のスケジュールについて事務局から説明

ビジョンの変更・公表	3月中
ビジョン策定後	担当者部会や幹事会等において、具体的な実施方法や予算等の調整を行い、平成29年度から事業を実施
ビジョンの変更	計画期間（平成29～33年度）に変更の必要が生じた場合、随時懇談会を開催

6. 閉 会

(近藤会長あいさつ)

- ・議事進行に御協力いただき感謝する
- ・ビジョンの変更案をまとめることができ、これから共生ビジョンの取組が実施されていくが、ビジョンなどの計画を作ることは大事であるが、それをいかに実行し、社会に顕在化させていくことがより重要である
- ・その重要性を国や各自治体も認識した上での、今回の成果指標の設定であり、今後は達成に向けて前進していただきたい
- ・指標を作った以上は検証のための実績データを把握し、目標と比較・検証し、今後の方向性を検討していくものである
- ・早期に目標値を達成した場合や、実績に比べて目標が遠い場合など、進捗状況によっては計画期間中の目標値の修正等も検討すべきと考える
- ・計画は1回作ればそれで確定というわけではなく、計画は生きている、命を持ったものであり、逐次見直す中で改善していくべきものであり、それには今回設定したKPIが重要な役目を持っている
- ・5年後は1つのゴールとして、その後は次期共生ビジョンの策定が考えられるが、継続して南阿波定住自立圏を良くしていくためにも、委員の皆さん、自治体の皆さん、住民の皆さんが協働して進んでいければ非常に嬉しく思う